

## PRP療法のひざ治療3,600症例突破【治療実績のご報告】

ひざ関節症クリニックグループでは、血液成分を活用するPRP療法のなかでも、組織の修復に働く成長因子を濃縮し、活性化させて投与する「PRP-FD注射」を取り扱っております。2015年11月に当院で治療を導入してからこれまで、変形性膝関節症や半月板損傷など、様々なひざの痛みにお悩みの患者さまに治療を行ってきました。

2019年11月現在において、その治療実績が3,600症例以上となりましたことをご報告いたします。併せて、治療を受けてくださった患者さまに心よりお礼申し上げます。

### ■PRP療法とは

血液中には、血小板という細胞が存在します。この血小板を濃縮した液体成分をPRP（多血小板血漿）といいます。

血小板から分泌される成長因子には、コラーゲンの産生や細胞分裂の活性化、修復に働く細胞を呼び寄せるなどの作用があるため、患部に投与することで一時的に自己治癒能力が上昇。これにより痛みが改善したり、治癒を早める効果が期待できるのです。

PRP療法に必要な処置は採血と注射だけ。手術を行わないことから近年、長期離脱を危惧するプロスポーツ選手らが治療を受けるケースも増えています。

### ■PRP-FD注射の違い

PRP-FD注射は、一度PRPを作成してからさらに成長因子を高濃度に構成したものを投与します。含まれる成長因子の量は、同じ血液量の一般的なPRPの2倍以上となります [1]。

また、ひざ関節症クリニックグループの両治療の症例データを比較したところ、変形性膝関節症の痛みスコアはどちらも低下（痛みが改善）していましたが、PRP-FD注射の方により高い効果が見られました（右グラフ参照）。

### ■治療に関するお問い合わせ

治療についてのご質問やご相談は下記の窓口までお問い合わせください。

【東京ひざ関節症クリニック お問い合わせ窓口】

フリーコール 0120-013-712

メールアドレス [tokyo@knee-joint.net](mailto:tokyo@knee-joint.net)

PRP-FD注射で痛みの改善は期待できますが、効果の見込みは治療前のひざの状態によっても異なります。そのため、治療を受けるかご検討される前に、まずは適応診断をおすすめしております。ご希望の方も、上記窓口までお問い合わせください。

引用：J Araki, et al. Optimized preparation method of platelet-concentrated plasma and noncoagulating platelet-derived factor concentrates: maximization of platelet concentration and removal of fibrinogen. Tissue Eng Part C Methods. 2012 Mar;18(3):176-85.

### PRP-FD注射の治癒作用



### PFC群のほうが有意な改善 (VAS)

